



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

ポーラ文化研究所

POLA RESEARCH INSTITUTE OF
BEAUTY & CULTURE

ポーラ文化研究所所蔵の化粧文化に関する資料、 高精細デジタル画像でオンライン閲覧が可能に 古典籍176冊・浮世絵349点を4月16日に公開

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）とポーラ・オルビスグループで化粧に関する研究活動を行うポーラ文化研究所（所在地：東京都品川区）は、ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）176冊と浮世絵349点の高精細デジタル化に取り組み、2021年4月16日（金）に公開しました。2019年より両機関が協力・連携して進めたこの取り組みにより^{※1}、化粧文化に関する大規模な資料群のインターネットを通じた検索・閲覧が『いつでも、どこでも、どなたでも、そして無料で』可能になりました。

ポーラ文化研究所が所蔵する古典籍・浮世絵の高精細デジタル画像の一括公開は今回が初となります。化粧文化に関する資料の大規模な公開は、化粧文化への理解を広げるとともに、江戸時代を中心とする風俗・文化史研究、海外からの日本文化理解の促進に寄与することが期待されます。また、「昨今の新型コロナウイルス感染症による社会・経済に対する影響により、急激にテレワークへのニーズが高まった。大学等の教育機関における遠隔授業をはじめとして、信頼できる文化学術資源を必要とするものも多くある」^{※2}という状況の中、今回の公開はウィズ・ポストコロナ時代におけるニーズにも大いに資するものと考えます。

- 公開年月日：令和3年4月16日
- 公開数：古典籍176冊・7,235コマ^{※3}、浮世絵349点・459コマ
- 公開サイト：国文研の「新日本古典籍総合データベース」<https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-pohd.html>
ポーラ文化研究所の「蔵書データベース」<https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/library/>
「化粧文化データベース」<https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/data/>

※1 国文研・ポーラ文化研究所「共同リリース」令和2年7月9日 https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/images/20200709_release.pdf

ポーラ・オルビスホールディングス「ニュースリリース」令和2年7月9日 https://www.po-holdings.co.jp/news/pdf/20200709_csr.pdf

※2 「3か年総括報告書 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」令和2年8月19日、デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）より

※3 画像ファイル数

公開資料について

ポーラ文化研究所所蔵の化粧・髪型・装いなどに関する、江戸時代を中心とした古典籍、江戸～明治時代の浮世絵が対象です。

当初、令和3年4月の公開予定資料数を約300点としていましたが、国文研・ポーラ文化研究所が協力してデジタル化を精力的に進め、古典籍176冊・浮世絵349点の公開となりました。



【資料例】詳細は別紙参照

溪斎英泉 画

「浮世四十八手 夜をふかして朝寝の手」
文政4～5年頃（1821～22年頃）

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室 管理係

E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp

TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ポーラ文化研究所 広報担当

E-mail: infobunken@po-holdings.co.jp

■ 共同プレスリリース ■

ポーラ文化研究所および国文学研究資料館のご紹介

ポーラ文化研究所

POLA RESEARCH INSTITUTE OF
BEAUTY & CULTURE

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス ポーラ文化研究所

化粧を美しさの文化としてとらえ、学術的に探求することを目的として、1976年5月15日に設立されました。以来、日本と西洋を中心に、古代から現代までの化粧文化に関わる資料の収集と調査研究を行っています。

国内外の美術館への展示協力や、現代の化粧・美意識やライフスタイルに関する調査の実施・公開のほか、2005年には化粧文化の専門図書館「ポーラ化粧文化情報センター」、2018年には所蔵資料を検索・閲覧できる「化粧文化データベース」の運営を開始しました。

ポーラ文化研究所は、化粧を“人が豊かに生きるための大切な文化”として広く、深く研究し、その成果や文化資産を社会に公開することで、化粧文化への理解を広げるよう努めています。

【ポーラ文化研究所 ホームページ】

<https://www.cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/>Twitter [@POLA_bunken](https://twitter.com/POLA_bunken) Instagram [@pola_cosmeticculture](https://www.instagram.com/pola_cosmeticculture)YouTube <https://www.youtube.com/c/polacosmeticculture/>

ポーラ文化研究所のオリジナルデータベース

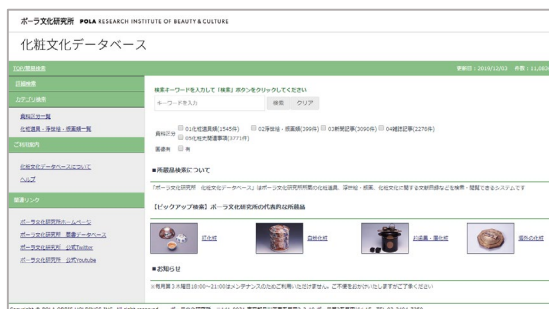
【蔵書データベース】 <https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/library/>【化粧文化データベース】 <https://cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/data/>

ポーラ文化研究所が「化粧」という視点で収集・保存してきた書籍、化粧道具や装身具、絵画資料などを検索・閲覧できるデータベースです。

「蔵書データベース」は化粧の歴史、美容法、化粧品、化粧道具、髪型、ファッション、美人観などに関する書籍約13,000件を検索できます。「化粧文化データベース」では、江戸時代の浮世絵や化粧道具などを含む化粧文化に関する資料約11,000件を検索できます。このデータベース公開などが評価され、ポーラ文化研究所はデジタルアーカイブ推進コンソーシアムが主催する「2018年度デジタルアーカイブ産業賞」貢献賞を受賞しました。



蔵書データベース



化粧文化データベース

■ 共同プレスリリース ■

ポーラ文化研究所および国文学研究資料館のご紹介



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26（2014）年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学などと連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

【国文学研究資料館 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/>

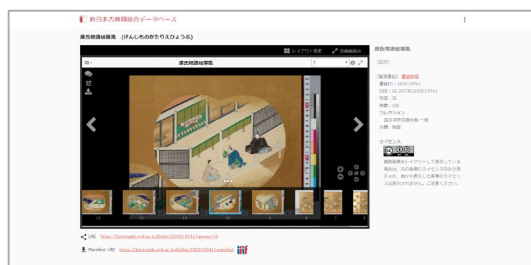
Twitter [@nijlkokubunken](https://twitter.com/nijlkokubunken) Facebook [@nijlkokubunken2](https://www.facebook.com/nijlkokubunken2)

唯一の日本古典籍ポータルサイト

【新日本古典籍総合データベース】 <https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

「新日本古典籍総合データベース」は「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」において国文学研究資料館が構築しています。

複数の機関が所蔵する古典籍の情報や、その高精細画像を一度に検索できる日本古典籍ポータルサイトです。国文学の研究者だけでなく、学生、他分野の研究者、産業界、広く市民のみなさまにも役立てていただけるコンテンツを無料で公開しています。



■ 別紙 ■

公開された資料をいくつかご紹介します。

(けいさいえいせん) (うきよしじゅうはって よをふかしてあさねので)

溪斎英泉 画「浮世四十八手 夜をふかして朝寝の手」

文政4～5 (1821～22)年頃



「紅入御はみがき 福夷煎」と読める歯磨粉の袋



下唇に塗られた鮮やかな笹色紅

朝寝坊した左の女性の手には歯磨粉と長い房楊枝（歯ブラシ）がみえる。右の女性は着替えも髪も化粧も終えていて、下唇は緑色に彩られている。これは文化・文政期に流行した紅の塗り方で、鈍く緑色に光る様子から笹色紅（ささいろべに）と呼ばれた。

「新日本古典籍総合データベース」 <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100314038>

「化粧文化データベース」 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000427poladb_U00215

(うたがわとよくに) (はるさめゆたかのゆふばえ)

歌川豊国 画「春雨豊夕栄」安政2 (1855)年



遊郭の慌ただしい身支度の様子を描いている。鏡台の前に座る遊女の髪を結い上げているのは女髪結。髻を元結で縛っており、「島田髻」を結うところだろう。口でくわえた元結を力強く縛り上げる姿からは、きびきびとした仕事ぶりが伝わってくる。

「新日本古典籍総合データベース」 <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100314036>

「化粧文化データベース」 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000427poladb_U00206

本プレスリリースに掲載された資料の画像は、併記したURLで公開されています。

■ 別紙 ■

公開された資料をいくつかご紹介します。



(さんだいうたがわとよくに / うたがわくにひさ)
三代歌川豊国画 / 歌川国久 (こま絵)
 (えどめいしよひやくにんびじょ あすかやま)
『江戸名所百人美女 阿寿かやま』
安政4 (1857)年

お江戸の桜の名所、飛鳥山。花の時期には大賑わいだったという。こちらの女性もこれから花見をするところか、莫座（ござ）の上に降り立って懷紙に忍ばせた手鏡を見ながら化粧直しをしている。裾に杵模様を散らした着物の粋な姿である。

「新日本古典籍総合データベース」 <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100314085>
 「化粧文化データベース」 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000427poladb_U00370

(けしょうまゆつくりくでん)

『化粧眉作口傳』 宝永5 (1708)年



主に上流階級が行っていた礼法としての眉化粧と使用する道具が詳細に記されている。江戸時代、一般の女性は子供ができると眉を剃り、あらたに描くことはなかったが、上流階級ではある程度の年齢になると眉を剃り、TPOに合わせた眉化粧を行っていた。

「新日本古典籍総合データベース」 <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100314336>
 「蔵書データベース」 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000427polalib_18403

本プレスリリースに掲載された資料の画像は、併記されたURLで公開しています。